

高知県感染症発生動向調査（週報）

2013年 第41週（10月7日～10月13日）

★ お知らせ

○RS ウイルス感染症に注意して！

定点医療機関からの報告数が2週連続で増加しています。特に幡多福祉保健所管内では前週の2倍以上となりました。この病気は接触や飛沫を介して気道に感染し、2～8日の潜伏期（典型的には4～6日）の後、発熱、鼻水といった軽い風邪様の症状で発症し、通常1～2週間で軽快します。初めて感染発症した場合は重くなりやすいといわれており、乳期、特に授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。一方、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があります。予防のポイントは、手洗いと咳エチケットです。マスクを着用するなどして咳エチケットに気をつけ、手洗いによる手指衛生に努めましょう。

○流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）に注意して！

定点医療機関からの報告は前週と比較して増加しています。この病気はムンプスウイルスの感染により両側または片側の耳下腺の腫脹をきたす疾患です。3～8歳の小児に多く見られ、通常1～2週間で軽快します。合併症として髄膜炎、脳炎、難聴などがみられます。その他思春期以降の感染で、成人男性には睾丸炎、成人女子には卵巣炎が見られることがあります。ムンプスウイルスは接触、あるいは飛沫感染で伝播し、その感染力はかなり強いです。予防方法としてはワクチンがありますが、任意接種になります。かかりつけ医にご相談ください。

○手足口病まだまだ注意して！

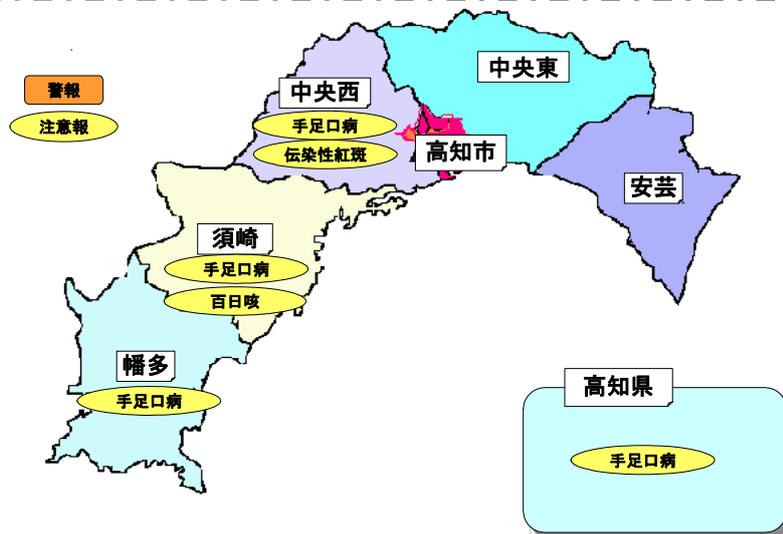
定点医療機関からの報告数は前週よりも減少していますが、県全域では注意報値を超えています。中央西福祉保健所、須崎福祉保健所管内では前週と比較し約2倍増加しているのでもう一度注意してください。予防の基本である手洗いを励行しましょう。

★ 県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
手足口病	→	2.03	中央西、須崎、高知市で増加し、県全域及び中央西、須崎、幡多では注意報値を超えている。全体では減少している。
流行性耳下腺炎	↗	1.27	須崎、幡多、中央東で増加している。
感染性胃腸炎	→	1.13	中央西、須崎で増加している。
RSウイルス感染症	↗	0.80	幡多、須崎で増加している。 流行のシーズンなので注意が必要です。
水痘	↘	0.40	安芸、幡多で増加しているが、全体では減少している。

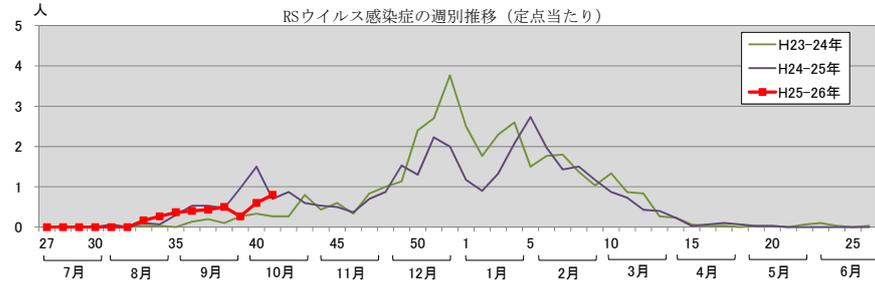
★ 地域別感染症発生状況



★ 気を付けて

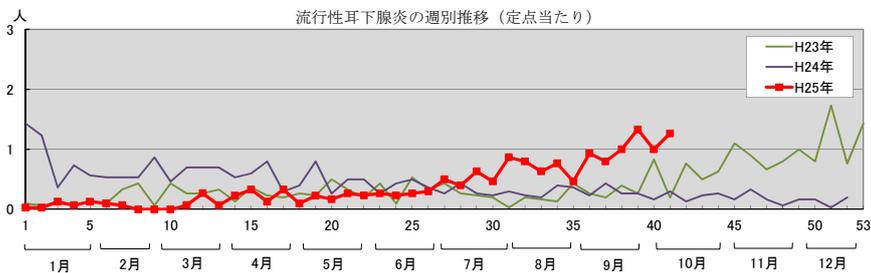
○RSウイルス感染症：0.80（注意報値、警報値：基準値無し）

定点医療機関からの報告は定点当たり0.80（前週：0.60）と増加しています。地域別にみると、幡多（3.20：前週1.00）須崎（2.00：前週1.50）で増加しています。年齢別にみると患者の90%以上が2歳以下になっています。例年冬期にピークが見られますが、流行の立ち上がりの時期が、去年より、徐々に早まってきているので注意してください。



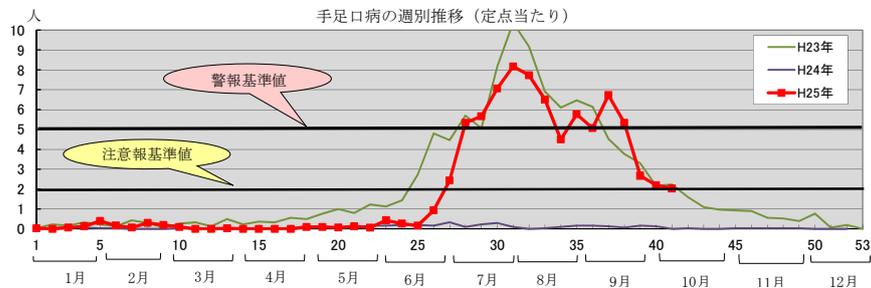
○流行性耳下腺炎：1.27（注意報値：3.00 警報値：6.00）

定点医療機関からの報告は定点当たり1.27（前週：1.00）と増加しています。地域別にみると、幡多（2.00：前週0.60）須崎（2.00：前週0.00）中央東（1.57：前週0.86）で増加しています。



○手足口病：2.03（注意報値：2.00 警報値：5.00）

定点医療機関からの報告は定点当たり2.03（前週：2.20）と8月上旬の第31週をピークに減少していますが、注意報値を超えています。地域別にみると、中央西（4.67：前週2.00）須崎（3.50：前週2.00）で増加し、幡多（2.80：前週5.00）では減少しましたが注意報値を超えています。年齢別にみると患者の85%が3歳以下になっています。



★ 病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
41	不明発疹症	1	男	須崎	Adenovirus 6
41	不明発疹症	1	男	須崎	Adenovirus NT
41	—	1ヶ月	男	幡多	Echovirus 11
41	川崎病	5ヶ月	女	高知市	Rhinovirus
41	百日咳	3	女	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
38	不明発疹症	8ヶ月	女	須崎	Coxsackievirus A8
40	急性心筋炎	1	女	中央東	Adenovirus NT
40	無菌性髄膜炎	3	男	中央東	Echovirus 6

★ 全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	3	111	40、80、90歳代（男）	高知市

★ 定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	野市中央病院小児科	40w病原性大腸菌 O-18 1例 (5ヶ月女:ペロトキシン (-))
	早明浦病院小児科	手足口病某保育園で再び増加
高知市	けら小児科・アレルギー科	帯状疱疹 1例 (8歳女)、病原性大腸菌 O-18 1例 (7歳男) アデノウイルス感染症 4例 (1歳男、6歳男2人、6歳女) カンピロバクター腸炎 1例 (7歳男)
須崎	もりはた小児科	アデノ扁桃炎 1例 (1歳男)、マイコプラズマ肺炎 1例 (4歳女) 百日咳 1例 (3歳女: LAMP 法陽性)
幡多	さたけ小児科	アデノウイルス感染症 1例 (1歳男)

★ 全国情報

第39週 (9/23~9/29)

- 1類感染症: 報告なし
 - 2類感染症: 結核303例
 - 3類感染症: 細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症93例、腸チフス3例、パラチフス3例
 - 4類感染症: E型肝炎1例、A型肝炎3例、つつが虫病1例、デング熱5例、日本紅斑熱4例、日本脳炎1例、レジオネラ症19例、Q熱1例
 - 5類感染症: アメーバ赤痢12例、ウイルス性肝炎5例、急性脳炎1例、クリプトスポリジウム症1例
後天性免疫不全症候群14例、侵襲性インフルエンザ菌感染症2例、
侵襲性肺炎球菌感染症4例、梅毒19例、破傷風2例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例
ジアルジア症1例、風しん19例、麻しん1例
- 報告遅れ: 日本脳炎2例、ライム病1例、急性脳炎1例、クリプトスポリジウム症2例

◆ 腸チフス2013年一国外渡航歴のない感染者の増加 (2013年10月2日現在)

腸チフスはチフス菌 (*Salmonella* Typhi) の感染によって起こる全身性感染症であり、通常は8~14日間の潜伏期の後、徐々に発症する。発熱が主症状で、悪寒を伴いながら階段状に体温が上昇し、稽留熱となる。また、比較的徐脈 (高熱のわりに脈拍数が増えない)、バラ疹 (高熱時に出現して数時間で消える)、肝脾腫が認められる。成人では下痢よりも便秘の頻度が高い。合併症として腸出血が十数%に認められる。重症度は軽症から重症まで様々である。感染可能な期間は、菌の排出が続く発症から回復期の間である。抗菌薬の内服を行わなかった患者の約10%では、発症後3カ月間菌の排泄が認められる。胆のうへの感染が持続しキャリアとなる症例は約2~5%である。また、抗菌薬の使用状況にもよるが、15~20%の患者で再燃することがある。

現在、日本における腸チフスは感染症法に基づく3類感染症として、無症状病原体保有者を含む症例の届出 (疑似症患者は対象外) が、診断した全ての医師に義務づけられている。無症状病原体保有者は、探知された患者と食事や渡航を共にした者に対する調査などによって発見されるほか、他の疾患に伴う検査や、健診などにおいて発見されている。近年は、毎年20~35例前後が報告されており、その約7~8割は直近の海外渡航歴が明らかにされ、国外感染が強く疑われた症例 (以下、国外感染例) である。2013年は9月末までで既に累積49例 (うち国外感染30例) が報告されており、うち18例は発症前に明らかな海外渡航歴のない症例 (以下、国内感染例) であり、2000年以降で最多となっている。診断月別にみると、国内感染例は毎月1~2例の報告が続いていたが、8月に3例、9月に7例と増加している。

2013年1~9月までの国内感染18例の内訳は、男性8例、女性10例 (男女比1:1.3)、年齢中央値が33歳 (範囲: 2~83歳) であり、若年者 (20代を中心とする) と高齢者 (70代) の二相性のピークを示している。報告のあった都道府県は、東京都5例、埼玉県4例、神奈川県、京都府各2例、千葉県、三重県、兵庫県、岡山県、広島県各1例であった。

8~9月に診断された10例に絞ると、7例が関東地方 (埼玉県3、東京都2、神奈川県2) からの報告であった。また、1例の無症状病原体保有者 (70代) を除いた9例中8例は50歳未満の有症状者であった。これらの症例について、推定される感染原因・感染経路はほとんどが不明であり、各症例間の疫学的関連性も今のところ不明である。

なお参考として、2013年1~9月にかけて、国内感染例から分離されたチフス菌のフェージ型別、薬剤感受性検査は11例 (11株) に対して行われており、フェージ型の結果はB1が3例 (埼玉県2、千葉県1)、D2が2例 (埼玉県1、京都府1)、A、E2、M1、39、UVS1、UVS4が各1例であった。薬剤感受性検査の結果は、1株 (UVS1、東京都) がナリジクス酸耐性/シプロフロキサシン低感受性であった以外は、すべての株が検査されたすべての薬剤に対し感受性を有していた。同定された菌株のフェージ型は多岐にわたり、これまでのところ特定の型の増加はみられていないが、8~9月に報告された感染者由来菌株の多くは未検査または未送付であるため、引き続き送付された菌株が解析される予定である。

2010年、米国では国外から輸入されたmamey (果実の一種) の冷凍果肉に関連した複数州にわたる腸チフスの集団発生が報告された²⁾。長期保存が可能な食品 (輸入された食品や冷凍食品など) は長期にわたり感染源となり得る。近年、我が国では国外渡航歴のある患者の接触者や胆のうにおける長期保菌者と思われる場合を除くと、ほとんどの腸チフスは散发例で感染原因が不明である。

医療機関において、持続した発熱やその他特有な症状を呈して受診した患者を診察した医師は、鑑別診断のために腸チフスも念頭に置き、渡航歴に関する問診や検査の依頼を行う必要がある。また、保健所等において、国内感染例として届け出られた症例については、感染源に関する注意深い疫学調査が必要である。分離菌の解析は重要な情報を示唆する場合がある。渡航歴に加え、場合によっては同一株による広域発生の可能性も疑い、食品喫食歴の情報収集には工夫することが望ましい。

チフス菌の感染はパラチフス菌 (*Salmonella Paratyphi A*) と同様にヒトに限って起こり、患者および無症病原保有者の糞便と尿、それらに汚染された食品、水、手指が感染源となり、経口的に感染する。海外の腸チフスの高リスク地域に渡航する者に対しては予防策としてワクチンが用いられることがあるが、基本的な感染の予防は、徹底した手洗い（食物を扱う前やトイレの後など）である。

(国立感染症研究所 感染症疫学センターより)

高知県感染症情報(58定点医療機関)

		第41週 平成25年10月7日(月)～平成25年10月13日(日)										高知県衛生研究所	
定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(40週)	高知県(41週末累計) H24/12/31～H25/10/13	全国(40週末累計) H24/12/31～H25/10/6	
インフルエンザ	インフルエンザ							()	()	153 (0.03)	11,199 (233.31)	1,136,992 (231.33)	
小児科	咽頭結膜熱			2			2	4 (0.13)	6 (0.20)	908 (0.29)	169 (5.63)	54,577 (17.39)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	5	2			11 (0.37)	1 (0.03)	3,017 (0.96)	648 (21.60)	196,023 (62.45)	
	感染性胃腸炎	2	1	17	6	2	6	34 (1.13)	35 (1.17)	9,416 (3.00)	6,733 (224.43)	239,02 (239.02)	
	水痘	2	1	4			5	12 (0.40)	18 (0.60)	1,606 (0.51)	1,472 (49.07)	128,671 (40.99)	
	手足口病		9	17	14	7	14	61 (2.03)	66 (2.20)	5,376 (1.71)	2,429 (80.97)	273,951 (87.27)	
	伝染性紅斑				5			5 (0.17)	3 (0.10)	123 (0.04)	57 (1.90)	7,714 (2.46)	
	突発性発疹			5	1		2	8 (0.27)	7 (0.23)	1,848 (0.59)	486 (16.20)	69,962 (22.29)	
	百日咳						1	1 (0.03)	()	29 (0.01)	43 (1.43)	1,315 (0.42)	
	ヘルパンギーナ			1		1	1	3 (0.10)	11 (0.37)	1,033 (0.33)	1,686 (56.20)	90,924 (28.97)	
	流行性耳下腺炎		11	13		4	10	38 (1.27)	30 (1.00)	717 (0.23)	478 (15.93)	31,807 (10.13)	
	RSウイルス感染症		1	3		4	16	24 (0.80)	18 (0.60)	3,248 (1.03)	635 (21.17)	48,867 (15.57)	
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	5 (0.01)	()	569 (0.84)	
	流行性角結膜炎							()	()	368 (0.54)	17 (5.67)	15,963 (23.44)	
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	8 (0.02)	7 (1.00)	339 (0.72)	
	無菌性髄膜炎							()	1 (0.13)	20 (0.04)	13 (1.86)	870 (1.85)	
	マイコプラズマ肺炎							()	3 (0.38)	168 (0.36)	188 (26.86)	9,138 (19.44)	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	1 (0.13)	15 (0.03)	16 (2.29)	572 (1.22)	
計	4	27	67	28	19	56	201		28,058	26,276	2,818,542		
(小児科定点当たり人数)	(2.00)	(3.85)	(6.08)	(9.34)	(9.50)	(11.20)	(6.70)			(727.84)			
前週	10	35	87	11	10	47		200					
(小児科定点当たり人数)	(5.00)	(5.00)	(7.54)	(3.65)	(5.00)	(9.20)		(6.50)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関)定点当たり人数

		第41週										
定点名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(40週)	高知県(41週末累計) H24/12/31～H25/10/13	全国(40週末累計) H24/12/31～H25/10/6
インフルエンザ	インフルエンザ									0.03	233.31	231.33
小児科	咽頭結膜熱			0.18			0.40	0.13	0.20	0.29	5.63	17.39
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.57	0.45	0.67			0.37	0.03	0.96	21.60	62.45
	感染性胃腸炎	1.00	0.14	1.55	2.00	1.00	1.20	1.13	1.17	3.00	224.43	239.02
	水痘	1.00	0.14	0.36			1.00	0.40	0.60	0.51	49.07	40.99
	手足口病		1.29	1.55	4.67	3.50	2.80	2.03	2.20	1.71	80.97	87.27
	伝染性紅斑				1.67			0.17	0.10	0.04	1.90	2.46
	突発性発疹			0.45	0.33		0.40	0.27	0.23	0.59	16.20	22.29
	百日咳						0.50	0.03	0.01	1.43	0.42	
	ヘルパンギーナ			0.09		0.50	0.20	0.10	0.37	0.33	56.20	28.97
	流行性耳下腺炎		1.57	1.18		2.00	2.00	1.27	1.00	0.23	15.93	10.13
	RSウイルス感染症		0.14	0.27		2.00	3.20	0.80	0.60	1.03	21.17	15.57
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.84
	流行性角結膜炎									0.54	5.67	23.44
基幹	細菌性髄膜炎									0.02	1.00	0.72
	無菌性髄膜炎								0.13	0.04	1.86	1.85
	マイコプラズマ肺炎								0.38	0.36	26.86	19.44
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								0.13	0.03	2.29	1.22
計		2.00	3.85	6.08	9.34	9.50	11.20	6.70			727.84	
(小児科定点当たり人数)		2.00	3.85	6.08	9.34	9.50	11.20	6.70			727.84	
前週		5.00	5.00	7.54	3.65	5.00	9.20		6.50			
(小児科定点当たり人数)		5.00	5.00	7.54	3.65	5.00	9.20		6.50			

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869